

港湾における中長期政策検討のための懇談会（第2回） 議事概要

日時：平成29年10月3日（火）14:00～16:00

場所：中央合同庁舎3号館 4階特別会議室

○琉球海運(株)寺内特別顧問より、国際フェリー・RORO 輸送について下記の点を中心にご講演頂いた。

- ・RORO 船とコンテナ船との輸送環境の比較、RORO 輸送のメリット。
- ・日台・日韓シームレス輸送の現状及び欧州でのシームレス輸送の現状。
- ・有事・災害時における RORO 輸送の活用と制度面での課題。
- ・インセンティブ競争にならないような特色ある港づくりの必要性、内外貿連続バース一体運営の推進、隣接港湾の一体運営など港湾政策への提言。

○ヤマトオートワークス(株)江頭社長より、臨海部のロジスティクス産業について下記の点を中心にご講演頂いた。

- ・原材料・生産財・消費財など対象物別の輸送方式の比較と、保管から流通加工や保税・通関機能の付加などの倉庫の役割の変化。
- ・ヤマトグループにおける倉庫での調達・加工・梱包に係る提供サービス及び港湾の加工特区としての活用や、情報通信技術を活用したターミナル周辺でのトラック渋滞の解消の方向性。

○主なご意見：

国際フェリー・RORO 輸送について

- ・北部九州から韓国・中国への RORO 航路は半導体輸送をはじめ重要な航路であり、航路維持への取組に期待したい。
- ・国際フェリー・RORO 航路が多い欧州と東アジアでは船の使い方や国際利害が異なる部分もあるが、種々の障壁がクリアされれば更に普及することが見込まれる。
- ・自動車部品のような高付加価値品はよいが、運賃負担力が低い商品もある。欧州も含め、RORO 輸送に馴染む商品の整理が必要。
- ・コンテナ輸送との勝負に加え、航空輸送との勝負の面も検討する必要がある。また、緊急時の機動力など、RORO 船の優位性を整理する必要がある。

臨海部のロジスティクス産業について

- ・地域に貨物が集約されている背景として、地元自治体の努力が大きな要因になっていることも理解しておく必要がある。
- ・アジアでは多様な財が経済水準の異なる地域で輸送されている点で、欧州よりはるかに難しい市場だが、今後は、対象貨物輸送量や船型、寄港パターン等を分析し、新たなビジネスモデルを考えていかなければならない。

以上